

体操の富田洋之さんをご存じでしょうか。

アテネオリンピックでは日本チームのエースとして出場し、団体総合で日本の28年ぶりの金メダル獲得に貢献しました。また、個人でも種目別の平行棒で銀メダルを獲得しました。

富田選手の出身高校は洛南高校。体操のみならずいろいろな競技で強豪校として知られています。その洛南高校の体操部名誉顧問の辻野先生が、富田選手のことについてコメントされていました。



日常生活即体操

洛南高等学校体操部名誉顧問 辻野 朝晟 氏

「私たちは昭和44年、初めて全国優勝を果たしたのである。スポーツ選手は相手との戦いではなく、自分との戦いである、ということを強く噛みしめた瞬間であった。

これまで私は300人以上の生徒を指導してきたが、強い選手とそうでない選手との差はどこにあるかと考えると、何事にも一生懸命やるか、手を抜くか、最後はその差でしかないというのが実感である。

その最たる模範が富田洋之だろう。洛南高校の制服は詰め襟の学生服だったが、彼は常に上までビシッと留めていた。また、毎日10時まで練習していれば、普通は授業中に寝るものだが、彼は一睡もしなかった。

彼がなぜ世界のトップクラスの選手になったのかと言え、人間性以外の何ものでもないと思う。日常生活即体操。練習場にいる間だけが練習なのではなく、生活すべてが技術を磨く場なのである。日常生活がだらしない人間は強い選手にはなれないし、社会に出てからも役立つ人間になれないだろう。高校3年間というのは、生徒にとっては長い人生の中のわずかな期間でしかない。しかし、その3年間でどう過ごすかがその後の人生に大きな影響を及ぼすのである。人間としての根を育てる。根がしっかりしていればどんなことにも耐えられ、やがて花が咲く。」

(「致知」H25. 7月号抜粋)